

VOICE

観光を支える方々の声を寄稿、インタビューを基にお届けします

神戸港におけるクルーズ振興

より多くの入港へさまざまな取り組み

神戸市長(全国クルーズ活性化会議会長)
久元 喜造氏

神戸港には世界各国のクルーズ客船が入港する。神戸ポートターミナルと中興旅客ターミナルの二つのクルーズターミナルがあります。国際港都市としての歴史を積み重ねる神戸港は日本の各地から、そして世界の各国から訪れる多くの人々に愛される「愛港のまち」です。

この二つのターミナルには、乗船客や送迎の方だけでなく、観光客や市民のたれも楽しめるウォータースタンプとして「くわわ」があります。また、市街地からも近く、神戸空港や神戸駅を利用して、日本全国から気軽に訪れることができる港で、世界を巡るクルーズ客船の魅力を高めることが神戸の特長です。

充実していることや六甲山の恵みにより、栄えた難五郷の酒蔵などが位置していることもあり、多くの船会社から神戸港を港に選んでいます。神戸港は、2018年に141隻、2019年に134隻のクルーズ客船が入港し、神戸の街は乗船客や船客のクルーズにさまざまな取り組みがありました。新型コロナウイルスの影響により、2020年以降は大幅にクルーズ客船が減少し、2022年には入港客数が引続き減少しています。神戸港は、海外からのクルーズ客船が減少した中、国内からのクルーズ客船の増加に注力し、国内クルーズの活性化に努めています。

神戸港には、海外からのクルーズ客船が減少した中、国内からのクルーズ客船の増加に注力し、国内クルーズの活性化に努めています。神戸港には、海外からのクルーズ客船が減少した中、国内からのクルーズ客船の増加に注力し、国内クルーズの活性化に努めています。



神戸港には、海外からのクルーズ客船が減少した中、国内からのクルーズ客船の増加に注力し、国内クルーズの活性化に努めています。神戸港には、海外からのクルーズ客船が減少した中、国内からのクルーズ客船の増加に注力し、国内クルーズの活性化に努めています。

コロナ禍明けの観光業界

変化に気づき変革を

ジェイアール東日本企画 常務取締役・チーフデジタルオフィサー
高橋 敦司氏

コロナ禍が明け、最初のGWが終わった。鉄道や航空機の利用状況もかつてと同じ数字に近づき、観光地はにぎわいを見せている。人の動きを封じ、まるで観光の仕事が社会悪のよう叩かれた3年余りの時間。再び人が各地を旅し、それを受け入れる日常に戻ってきたことは実に嬉しい。

コロナはさまざまなものを破壊し、さまざまなものを生み出した。その多くはもとには戻らないだろう。貸し切りバスが大幅に減り、バスツアーはおろか教育旅行の対応も難しい地域が出てきた。旅館やホテルを中心とした地方のサービス業の担い手は大幅に減少し、失った雇用を再び戻すことは相当な困難を極めている。飲食店も同様。泊食分離が叫ば

られて久しいが、それが浸透する頃には分離した食事を扱う料理人もサービス業も地域にないという状況が現実になりつつある。

一方、コロナ禍はデジタル領域の著しい成長をもたらした。人との接触を避けたいという目的を踏まえ、ネット予約やオンラインサービスが急拡大し、今では観光施設の多くがWebでの事前予約を取り入れていて、スマートフォンがあればどこでも予約できる。また、責任が地域の現場にある観光施設は、Webでの事前予約を取り入れていて、スマートフォンがあればどこでも予約できる。また、責任が地域の現場にある観光施設は、Webでの事前予約を取り入れていて、スマートフォンがあればどこでも予約できる。



外国人は、3月に訪日客が初めて300万人を超え、もはやコロナ禍とならなかった。彼らをしっかりと受け入れるために、地方から直向した新たな課題設定が必要だ。変革を促す。変化に気づき変革を。その結果は、明らかになるはずだ。

日本の価値・地域の価値を再認識し稼げる産業へ

日本のあたりまえ、世界のアメイジング!

日本旅行業協会(JATA) 国内旅行推進部長
野浪 健一氏

コロナ禍が収まり訪日客も増えてきた日本において、観光に関わる素材、商品も訪日客の興味と購買力に合わせた価格設定が増えつつある。東京のホテル代や京都祇園祭のプレミアム観音堂、北海道ニセコのリゾートや海鮮など、これまでの日本では「えっ」と思うような価格が数々現れるようになった。驚きを隠せない人も多くなる。しかしながら、視点を変えてみると、今までの本人があたりまえと認めてきた素材、サービスは実は世界ではかなり高い価値があり、その価値を磨くことも多々ある。それは、日本人がその価値を分からずに(悪たとも言うべきではない)「安売り」してしまっている。

冬は訪日客が圧倒的に多くなる。本人のホスピタリティ等の訪れ、何かと注目される。世界での価値を再認識し、ニセコの真似物ではなく、満足度を維持しながら安売りで、唯一、宿泊料を定率で、2割に設定し、宿泊料の上昇もあって、昨年より大幅に減少した。その結果、京都祇園祭のプレミアム観音堂、北海道ニセコのリゾートや海鮮など、これまでの日本では「えっ」と思うような価格が数々現れるようになった。驚きを隠せない人も多くなる。しかしながら、視点を変えてみると、今までの本人があたりまえと認めてきた素材、サービスは実は世界ではかなり高い価値があり、その価値を磨くことも多々ある。それは、日本人がその価値を分からずに(悪たとも言うべきではない)「安売り」してしまっている。



冬は訪日客が圧倒的に多くなる。本人のホスピタリティ等の訪れ、何かと注目される。世界での価値を再認識し、ニセコの真似物ではなく、満足度を維持しながら安売りで、唯一、宿泊料を定率で、2割に設定し、宿泊料の上昇もあって、昨年より大幅に減少した。その結果、京都祇園祭のプレミアム観音堂、北海道ニセコのリゾートや海鮮など、これまでの日本では「えっ」と思うような価格が数々現れるようになった。驚きを隠せない人も多くなる。しかしながら、視点を変えてみると、今までの本人があたりまえと認めてきた素材、サービスは実は世界ではかなり高い価値があり、その価値を磨くことも多々ある。それは、日本人がその価値を分からずに(悪たとも言うべきではない)「安売り」してしまっている。

大河ドラマで地域活性化

終了後を意識した取り組みを

観光プロデューサー
西川 哲司氏

「大河ドラマ」は、テレビ開始10周年を迎えた1963年(昭和38年)から放送されているNHKによる歴史ドラマの総称。日本史上実在した人物の生涯を描いた作品が数多くある。筆名がNHK大河ドラマのゆかりの地に設置される大河ドラマ館との関わりが始まったのは、2020年に放送された明智光秀をテーマにした「徳川家康」の大河ドラマ館が岐阜県岐阜市に設置された。それ以来、全国各地で大河ドラマ館が設置され、地域活性化に貢献している。

一方、地域住民からみると、大河ドラマ館の設置は、地域の活性化に貢献している。大河ドラマ館の設置は、地域の活性化に貢献している。大河ドラマ館の設置は、地域の活性化に貢献している。



大河ドラマ館の設置は、地域の活性化に貢献している。大河ドラマ館の設置は、地域の活性化に貢献している。大河ドラマ館の設置は、地域の活性化に貢献している。

次のステージの入り口にあるインバウンド

地方振興は「スモールマス」で据える

一般財団法人関西観光本部 代表理事・専務理事
東井 芳隆氏

海外からの旅行者が増え、訪日客が中心である。観光客が中心である。訪日客が中心である。観光客が中心である。訪日客が中心である。

地方振興は「スモールマス」で据える。地方振興は「スモールマス」で据える。地方振興は「スモールマス」で据える。



地方振興は「スモールマス」で据える。地方振興は「スモールマス」で据える。地方振興は「スモールマス」で据える。

観光地域のつくり戦略を改定

観光の成長/地域の発展に好循環を

一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社
通称・海の京都DMO 社長 **村瀬 茂高氏**

京都府の北部地域において、観光需要はインバウンドを中心に急速に回復している。観光需要はインバウンドを中心に急速に回復している。観光需要はインバウンドを中心に急速に回復している。

観光の成長/地域の発展に好循環を。観光の成長/地域の発展に好循環を。観光の成長/地域の発展に好循環を。



観光の成長/地域の発展に好循環を。観光の成長/地域の発展に好循環を。観光の成長/地域の発展に好循環を。